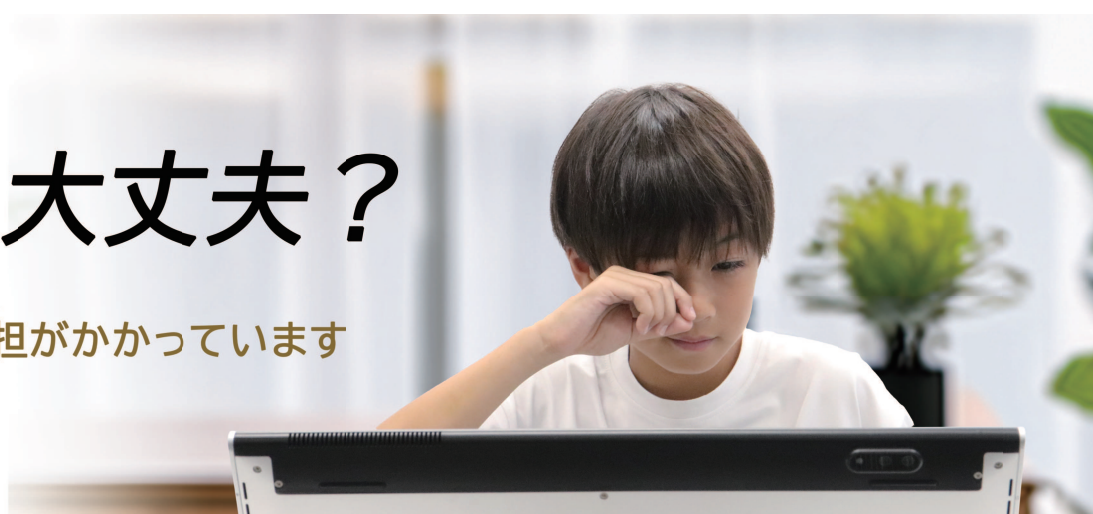


その眼、大丈夫？

長時間見ることで、
眼には見えない負担がかかっています



見るだけで、眼がリラックス

メガネとディスプレイにより「平行視」※の状態を実現

※平行視(へいこうし)とは右の画像を右眼で左の画像を左眼でというように、まっすぐ遠くを見ている状態

「マイオフリー装置」



眼精疲労が
気になる方に



急性内斜視が
気になる方に



仮性近視が
気になる方に



2026年春新登場

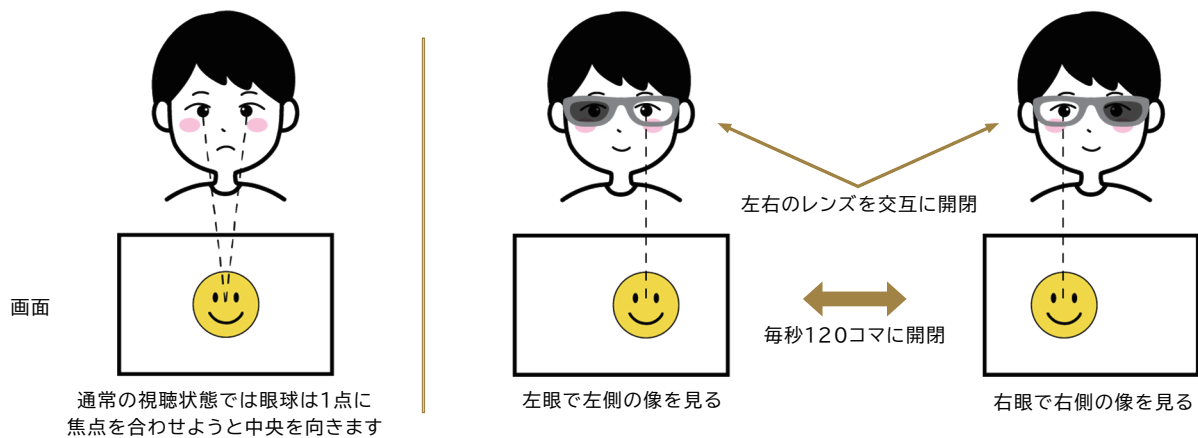
マイオフリータブレット

LCD | 15.6インチ | 平行視

マイオフリーの効果をそのままタブレットに搭載。
ゲームや映画をこれ一台で、眼にやさしい「平行視」体験。

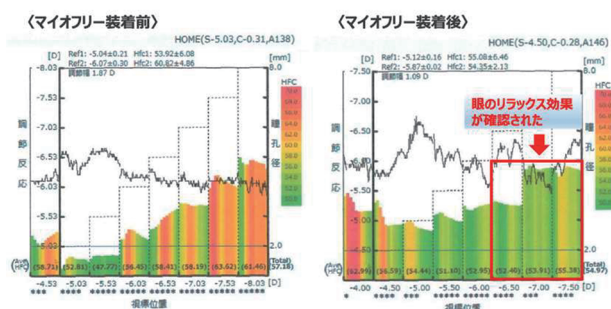
近視予防・眼精疲労軽減に挑む 「マイオフィー装置」

秘密は、専用の映像出力装置とシャッターグラス



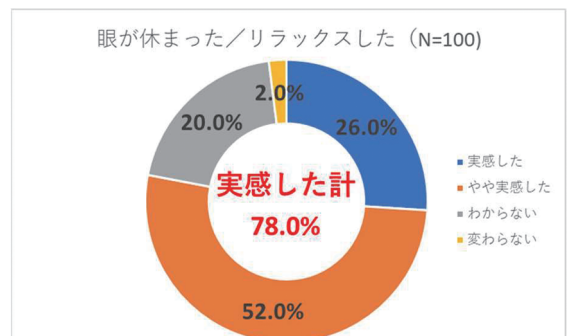
「マイオフィー装置®」は、特殊な映像入出力装置とステレオシャッター眼鏡で構成されています。映像出力装置は毎秒120コマ（120Hz）の超高速で、同一の画像を1～5cmの範囲で左右にずらして、ディスプレイ上に交互に表示します（平行視差画像）。ステレオシャッター眼鏡は、この左右にずらされた平行視差画像に同期し、左右のレンズを交互に開閉します。この原理により、「右眼で右側の像を見て、左眼で左側の像を見る」という状態が作り出され、高速で繰り返される平行視差画像と眼鏡の同期によって、脳内で1つの立体画像として融像されます。通常、至近距離（30cm以内）で画像を見ると、眼球は内転し（輻輳）、毛様体筋や外眼筋の緊張を引き起こします。しかし、マイオフィー装置装用時には、「近くを見ていても遠くを見ている」状態が作り出されるため、輻輳が生じず、眼をリラックスさせた状態を保つことが可能です。

長時間の近方作業やゲームで眼の疲労や異常を感じる方々にデモ体験を実施中



毛様体筋から生じる眼精疲労を診断するピント調節機能測定装置「NIDEK AA-2」を用いて、中度の眼精疲労を自覚している被験者を検査したところ、「マイオフィー装置」のプロトタイプを使用する前と後で毛様体筋に掛かる負担が軽減されていることが確認されました。

100名のマイオフィー体験後のアンケート結果



左図データ取得：2022年11月12日、場所：神奈川県川崎市市内の眼科専門医院、被験者：35歳男性、中度近視、老眼なし、中度の自覚的眼精疲労あり、マイオフィー装置を装着して画面から50cm離れた状態でVDT作業を行い実験前後の眼の状況を「NIDEK AA-2」で測

